

関係者各位

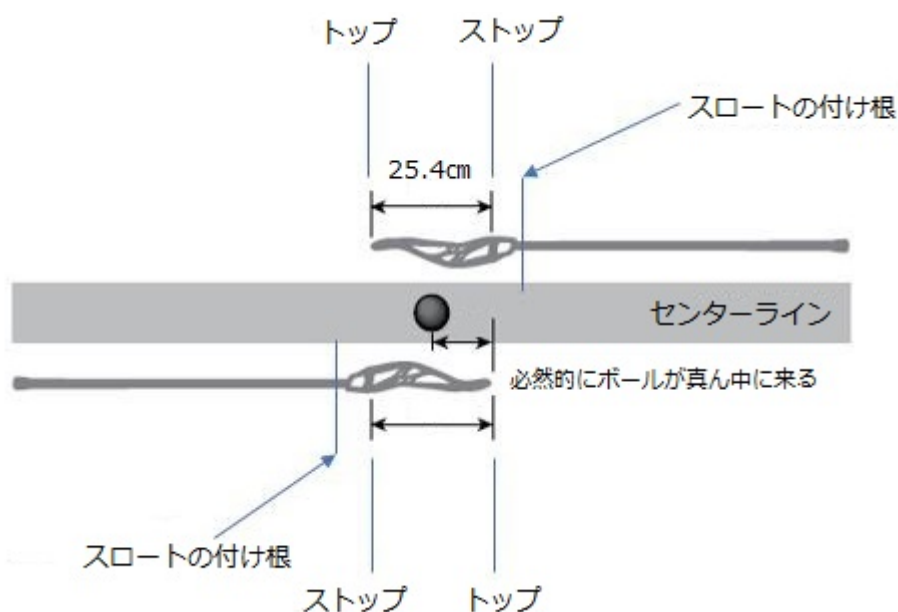
日本ラクロス協会

## 男子競技：フェイスオフについて

2012年頃よりフェイスオフのスペシャリスト（FOGO）が増え、技術も多彩になってきており、米国でも同様の状況となり NCAA でもフェイスオフの違反の厳格適用による公平性の確保に進んでいるため、関連するルールの適用の見直しを行いました。昨シーズン中に発生した事例を基に、今シーズンについては以下の点に注意し、選手はプレーし、審判員はジャッジすることに取り組んでください。

### ① セット時のスティックの位置について

ルール34.2「審判員はクロスの裏面が正しく向かい合っていること（原文The referee shall make certain that the reverse surfaces of the crosses match evenly）」をより厳密に適用し公平なフェイスオフとするため、スティックのヘッドの先端（トップ）と相手のスロートのボールストップ側（ストップ）に合わせてセットすることとします。（トップ トウ ストップ）



#### 具体的な手順について

- ・ 審判員は、選手の横に直立した状態のまま「ダウン」をコールし、選手にフェイスオフのポジションに入らせます。
- ・ トップ トウ ストップを含めルール通りにクロスが置かれていることを確認したのち

に、選手の横に直立したままセットをコールします

- ・ セットをコールした後、審判員は状況を目視しながら選手から離れ位置につき、笛を吹きます。

実際の動き方、見方については下記動画を参照してください

[https://www.youtube.com/watch?v=t\\_s5uNBPa10&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=t_s5uNBPa10&feature=youtu.be)

クォーター開始時やタイムアウト明けの時計が止まっている状況を除いて、トップトゥ ストップができていないことを修正すると非常に時間がかかるので、審判員は修正を行わず、イリーガルプロシーチャーを科してください。

選手の皆さんはトップ トゥ ストップでセットすることに慣れるまでは、ヘッドの先端から約13cmのところに目印を付け、そこにボールの中心が来るようにすることをお勧めします。

## ② センターラインの幅に合わせてクロスを置く

センターラインがルール通りの幅（10 cm）である場合は、グラブもスティックもセンターラインやボールに触れてセットすることはできません。トップ トゥ ストップと同様に時間が止まっている状況以外は、審判員は修正を行わず、イリーガルプロシーチャーを科してください。

## ③ ホイッスルに合わせてスタートする

フェイスオフは審判員がセットをコールし、笛が吹かれた時点で開始になります。笛のタイミングは、必ずしも「セット」の直後ではありませんので、笛に合わせて普段の練習から準備してください。

## ④ 頭、手、肘、膝などを用いることについて

ボールをクランプしている相手のスティックをスティックで上から押さえつけるだけでなく、以下のプレーも反則となりますので、注意してください。

- A) 押し合いの際に、肘や膝、つま先を使って自分または相手のクロスヘッドをコントロールする（ホールディング）
- B) 頭を使って相手の身体を押さえる（ホールディング）
- C) ボールが出た後に相手の身体を手で押す（ワーディングオフ）

これらの行為は本人の意図するところでも相手にとって明確に不利な状況が生

じますので、選手はこれらの状況になった場合に回避することを意識し、審判員はしっかりと状況を見極め判断するようにしてください。

#### ⑤ フェイスオフ用のヘッドについて

NCAA などではフェイスオフ時にヘッドのスロート部のプラスチックの部分を握っていないことを示すために、ヘッドの色と異なる色調のテープを巻くことを義務付けられていますが、より上の方を握れるようにするためにスロート部のプラスチックを極力短くしているフェイスオフ専用のヘッドが販売されています。

「プラスチック」の範囲が異なりますので、握った状態だけで確認せず、実際の形状を確認するようにしてください。

FO 専用ヘッドと通常のヘッドのシャフトとのジョイント部の長さの違い



通常のヘッドよりグラブの指1本分程度プラスチックの部分が短くなっているので、FO 専用ヘッドの場合、一見ヘッドのプラスチックの部分を完全に握っているように見えてしまいますので、間違えないようにしてください。

#### ⑥ フェイスオフ前のコミュニケーション

上記適用は、厳密に取り締まることだけを目的としているものではありません。

審判員は他の選手の準備を待っている間に、上記も含めた各種注意事項や前のクウォーターで気になった点、反則となったことなどを選手に説明し、よりよいフェイスオフを行うことを選手と共に目指してください。また無駄な反則を減らすために、時計が止まっている状況では、修正できるものは修正してください。

以上